

横河電機株式会社

2021年3月期 第2四半期 決算説明会

2020年11月4日

1. 2021年3月期 第2四半期 連結決算の概要と 通期業績予想 P. 3

取締役 専務執行役員 経営管理本部長 穴吹 淳一

2. 決算補足資料 P. 16

四半期別実績／営業外・特別損益／受注残高

研究開発費・減価償却費・設備投資／貸借対照表／株価の状況

3. 現状認識と今後の見通し

Transformation 2020

-変革を実現し、さらなる成長発展へ- P.24

(特集：YOKOGAWAのDX)

代表取締役社長 奈良 寿

横河電機株式会社

2021年3月期 第2四半期 連結決算の概要と通期業績予想

取締役 専務執行役員 経営管理本部長
穴吹 淳一

■ 第2四半期実績：売上は減収、営業利益は減益

- ・ サマリー : 売上はCOVID-19や為替影響等により、減収
営業利益は主に減収により、減益
四半期純利益は前年並み
- ・ セグメント別 : 制御 減収減益
(除・為替および子会社譲渡影響：受注17.1%減、売上4.9%減、営業利益3.9%増)
計測 増収減益
航機その他 減収減益
- ・ 地域別 : 全地域厳しい中で、受注は中南米、売上は中国が健闘
- ・ 業種別 : COVID-19の影響や昨年度の大口の反動を受け、
エネルギー関連業種は厳しい状況

■ 通期業績予想：減収減益予想（修正あり）

- ・ 外部環境はいまだ不透明ながら、年度末に向けて「COVID-19感染拡大防止の取組み」と「経済活動再開への動き」がバランスを取りながら徐々に回復に向かうという考え方に変更はないものの、上期実績も踏まえ、予想を修正

■ 配当予想：年間配当金34円（修正なし）

決算サマリー（前年同期比）

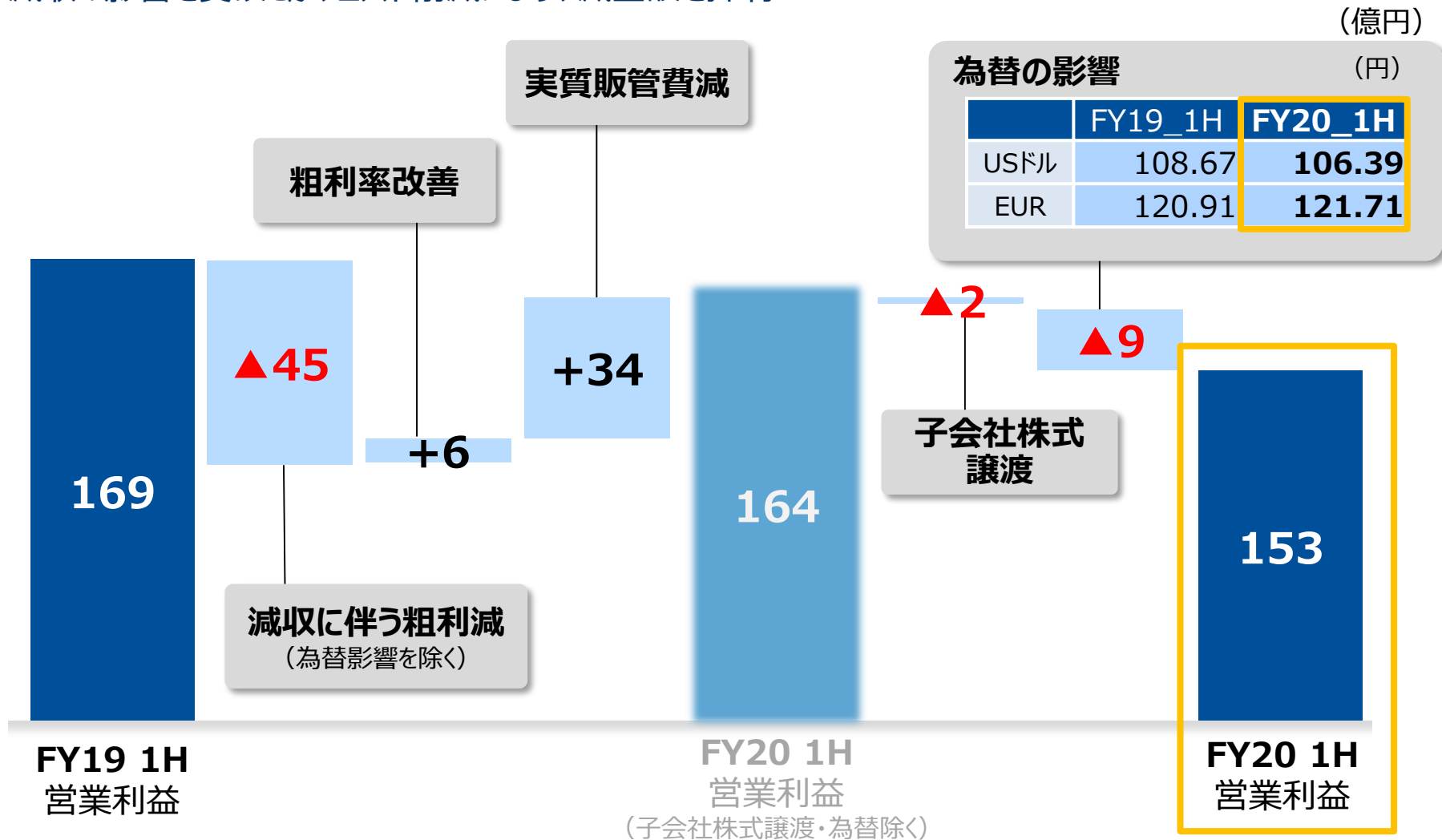
- ◆受注・売上 : 受注は**減少**（除・為替および子会社譲渡影響▲15.8%）
売上は**減少**（除・為替および子会社譲渡影響▲5.3%）
- ◆営業利益 : 営業利益は主に減収により**減少**
- ◆四半期純利益 : 四半期純利益は**前年並み**

（億円）

	FY19_1H	FY20_1H	差異	増減率	為替および 子会社譲渡影響
受注高	2,098	1,690	▲408	▲19.4%	▲81
売上高	1,914	1,744	▲170	▲8.9%	▲70
営業利益	169	153	▲16	▲9.0%	▲11
ROS(%)	8.8	8.8	▲0.0pt	—	—
経常利益	170	163	▲7	▲4.4%	▲11
親会社株主に帰属する 四半期純利益	99	98	▲1	▲0.8%	▲10
EPS(円)	36.94	36.65	▲0.29	▲0.8%	—
為替レート 1米ドル=	108.67円	106.39円	▲2.28円	—	—

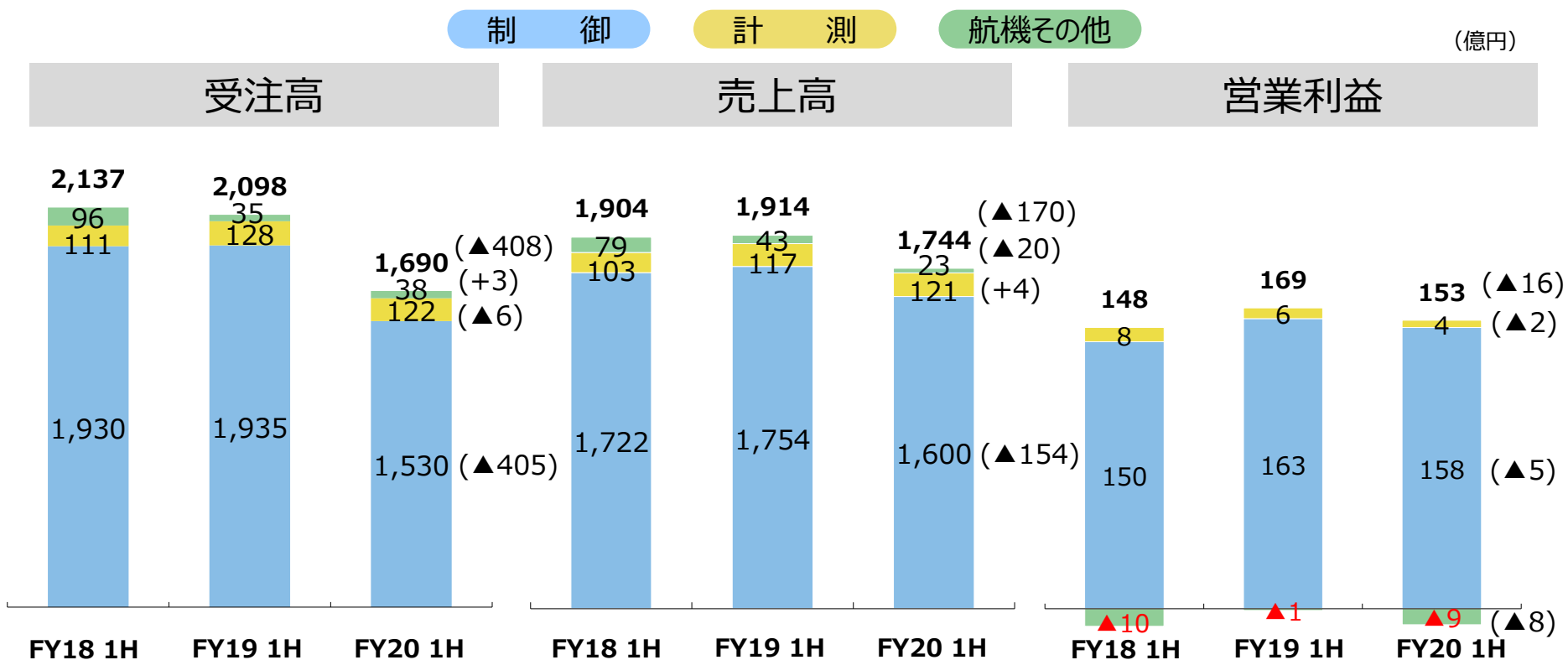
営業利益分析（前年同期比）

◆減収の影響を受けたが、コスト削減により、減益額を抑制



セグメント別 受注・売上・営業利益

- ◆ 制御事業 : 受注・売上は、COVID-19や為替影響等により減少
(除・為替および子会社譲渡影響 : 受注▲17.1%、売上▲4.9%)
営業利益は、主に減収により減益
(除・為替および子会社譲渡影響 : +6億円、+3.9%)
- ◆ 計測事業 : 売上は堅調だが、ライフイノベーション事業における先行投資の影響等で、増収減益
- ◆ 航機その他事業 : 航空関連機器需要の低迷などにより、減収減益



制御地域別 受注・売上高

- ◆受注：COVID-19や為替影響等を受け減少したが、中南米は増加(除・為替および子会社譲渡影響：▲326億円、▲17.1%)
- ◆売上：COVID-19や為替影響等を受け減少したが、中国は健闘((除・為替および子会社譲渡影響：▲86億円、▲4.9%)

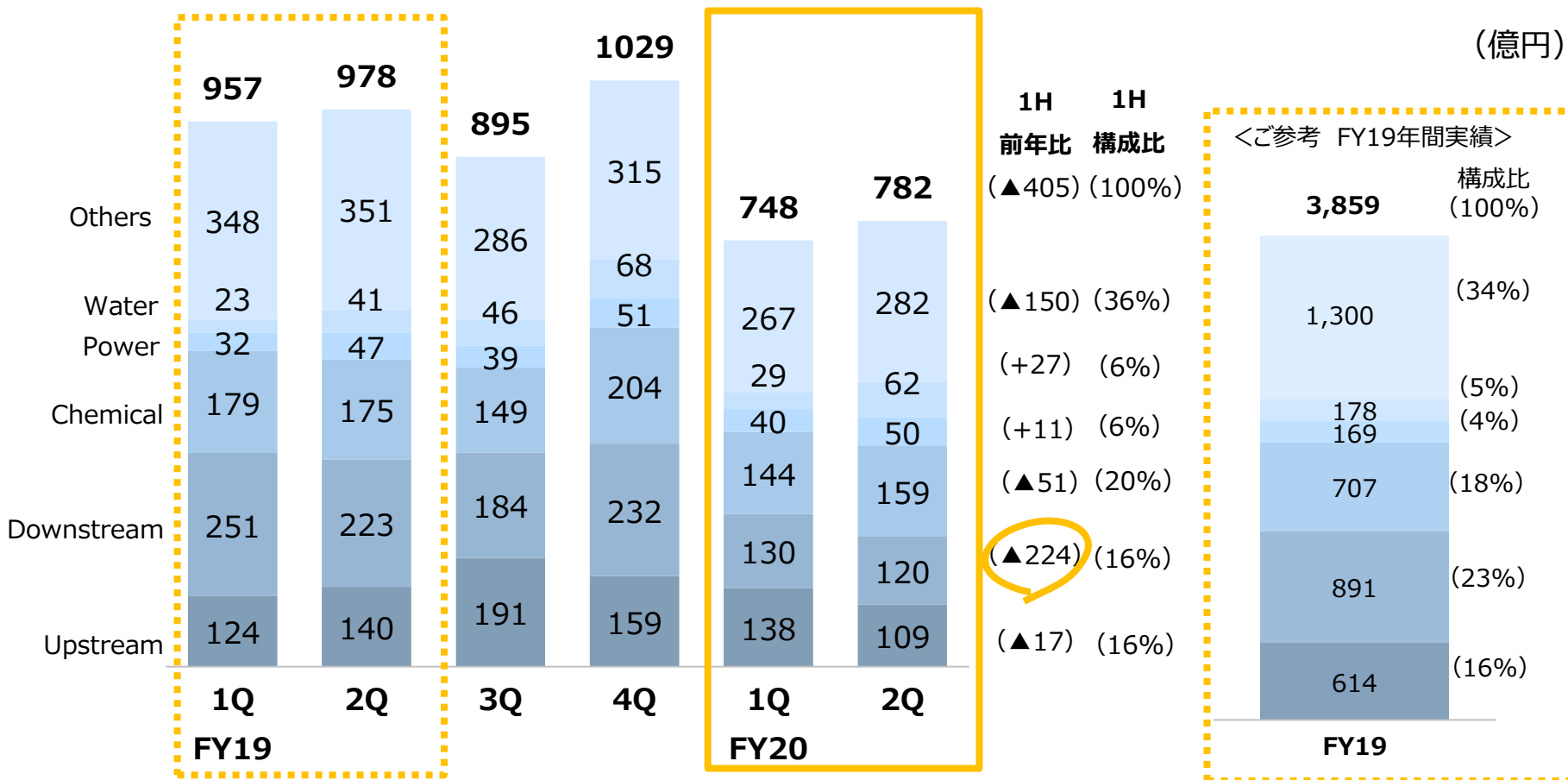
(億円)

受注高	FY19_1H (A)	FY20_1H (B)	前年同期比 (B-A)
日本	573	512	▲61
アジア	631	529	▲102
(東南アジア・ 極東)	(306)	(266)	(▲40)
(中国)	(239)	(215)	(▲24)
(インド)	(86)	(48)	(▲38)
欧州・CIS	241	172	▲69
中東アフリカ	285	178	▲107
北米	153	84	▲69
中南米	52	55	+3
海外小計	1,362	1,018	▲344
合計	1,935	1,530	▲405
為替レート 1米ドル=	108.67円	106.39円	▲2.28円

売上高	FY19_1H (A)	FY20_1H (B)	前年同期比 (B-A)
日本	496	474	▲22
アジア	576	540	▲36
(東南アジア・ 極東)	(304)	(277)	(▲27)
(中国)	(199)	(216)	(+17)
(インド)	(73)	(47)	(▲26)
欧州・CIS	245	203	▲42
中東アフリカ	251	194	▲57
北米	143	151	+8
中南米	43	38	▲5
海外小計	1,258	1,126	▲132
合計	1,754	1,600	▲154
為替レート 1米ドル=	108.67円	106.39円	▲2.28円

制御業種別 受注高

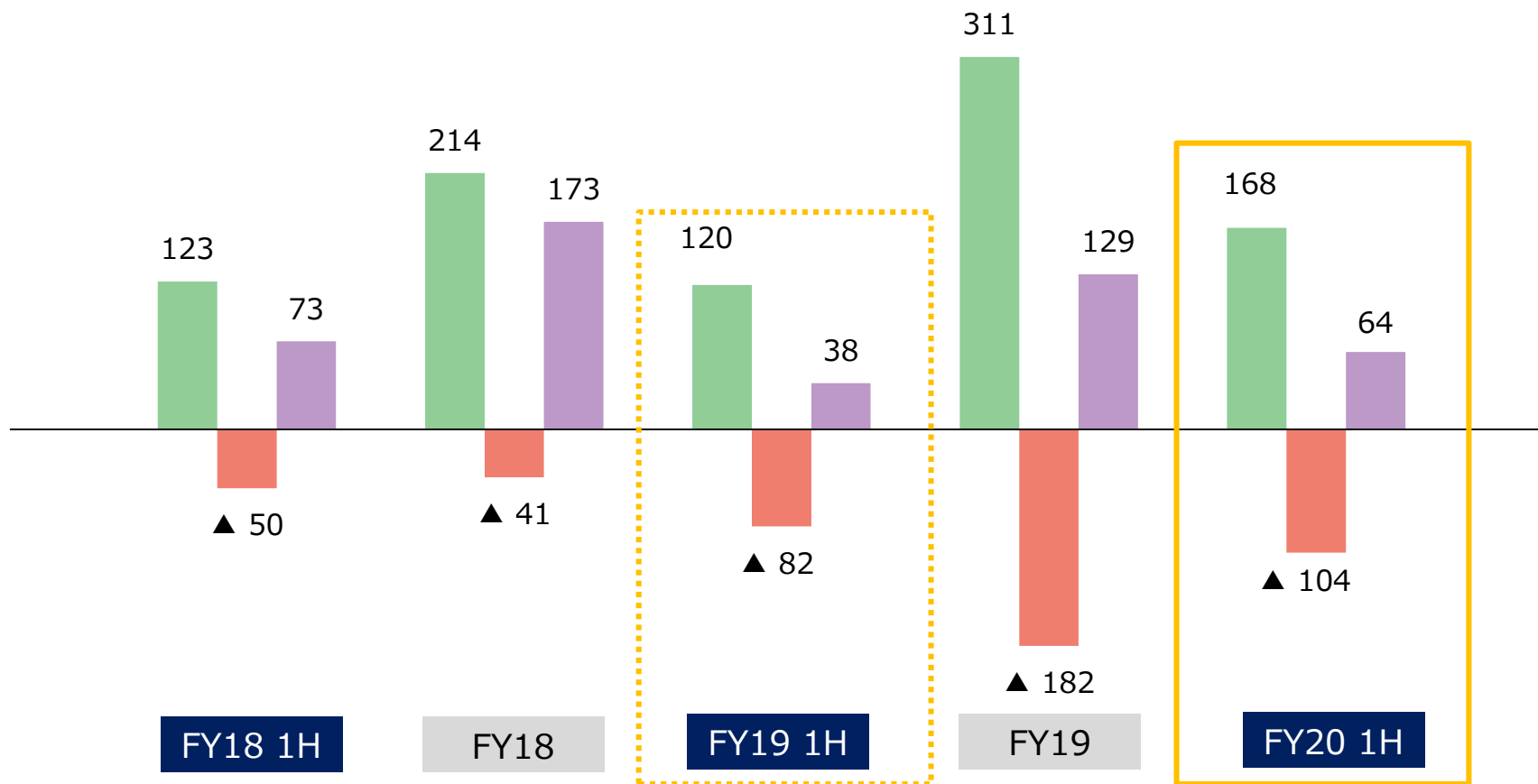
◆ COVID-19の影響や昨年度の大口の反動を受け、エネルギー関連業種は厳しい状況



キャッシュ・フロー

■ 営業CF ■ 投資CF ■ FCF

(億円)



FY20業績予想（修正あり）

- ◆外部環境はいまだ不透明ながら、年度末に向けて「COVID-19感染拡大防止の取組み」と「経済活動再開への動き」がバランスを取りながら徐々に回復に向かうという考え方に変更はないが、上期の実績を踏まえ、予想を修正

※FY20の原油価格は \$30～\$40／バレル 程度で推移と想定

(億円)

	FY19実績 (A)	FY20予想 (8/12 B)	FY20予想 (11/4 C)	前年比 (C-A)	伸長率 (C÷A-1)
受注高	4,187	3,500 ~ 3,800	3,600	▲587	▲14.0%
売上高	4,044	3,600 ~ 3,900	3,750	▲294	▲7.3%
営業利益	356	230 ~ 300	300	▲56	▲15.7%
ROS(%)	8.8	6.4 ~ 7.7	8.0	▲0.8pt	-
経常利益	363	230 ~ 300	300	▲63	▲17.4%
税引前利益	258	220 ~ 290	290	+32	+12.4%
法人税等	111	80 ~ 100	100	▲11	▲9.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	147	140 ~ 190	190	+43	+29.4%
EPS(円)	55.02	52.45 ~ 71.18	71.18	+16.16	+29.4%
為替レート 1米ドル=	108.96円	105円	105円	▲3.96円	-

FY20業績予想：セグメント別 FY20の見通し（修正あり）

FY20 通期予想 (億円) 2020.11.4時点			FY20の見通し	(参考) 前回予想
制御事業	受注高	3,290	<ul style="list-style-type: none"> ・システムプロジェクトは、エネルギー需要減少に伴う顧客の投資判断の遅れや価格競争激化が継続していることに加え、中東などで大口プロジェクトの翌期への遅延リスクが高まるなど、主に海外のプロジェクトビジネスを中心に前年から大きく減少。 ・国内は年度末に向けて、経済活動再開に伴い回復に向かうとの見方に変化なし。 ・プロダクトビジネスは、MROビジネスなどでは一定の引き合いを見せているが、海外の一部(北米、インド、中東など)ではCovid-19影響が大きく顕在化。 ・コンサルティングビジネスは、移動制限の影響を強く受け、KBCを中心に厳しい状況が継続している。 ・地域別には、中国・日本・中南米を除き、全体的にCOVID-19の影響を大きく受ける。 	3,210~3,480
	売上高	3,440	<ul style="list-style-type: none"> ・期初受注残は豊富だったものの、上期は受注減少の影響により受注残が減少。 ・しかしながら、売上充足の状況等から下期受注を確保することで見通し達成を見込む。 	3,300~3,570
	営業利益	310	<ul style="list-style-type: none"> ・貨物便不足による物流費の高騰、価格競争激化などによる粗利悪化リスクが継続。 ・グループ全体での徹底的な費用削減施策の実行（エンジニアリング、生産などの固定費は売上高減少に対応して削減。リモート対応やアフターコロナに向けた戦略的費用、IT投資などは継続。） 	240~300
計測事業	受注高	250	<ul style="list-style-type: none"> ・測定器ビジネスは、中国においては堅調な引き合いが入っているものの、日本を含むその他の地域においては事業環境は悪化しており、受注高・売上高ともに減少する見通し。 ・ライフサイエンスビジネス（CSU：共焦点顕微鏡など）は堅調に推移する見通し。 	240~260
	売上高	250		240~260
	営業利益	5	—	0~5
航機その他事業	受注高	60	<ul style="list-style-type: none"> ・COVID-19影響により最終顧客である航空会社の業績が大きく悪化しており、航空機ビジネスが大きく減少する見通し。 	50~60
	売上高	60		60~70
	営業利益	▲15	—	▲10~▲5

※ 各セグメントの受注高については未だ不透明感が強く、今後の動向次第で見直しが必要となる可能性が高い

※ 徹底的な費用削減施策の実行や移動制限等による自然減を背景とした販管費の削減(減少)は各セグメントの営業利益予想に反映済み

セグメント別 受注・売上・営業利益 予想（修正あり）

制 御

計 測

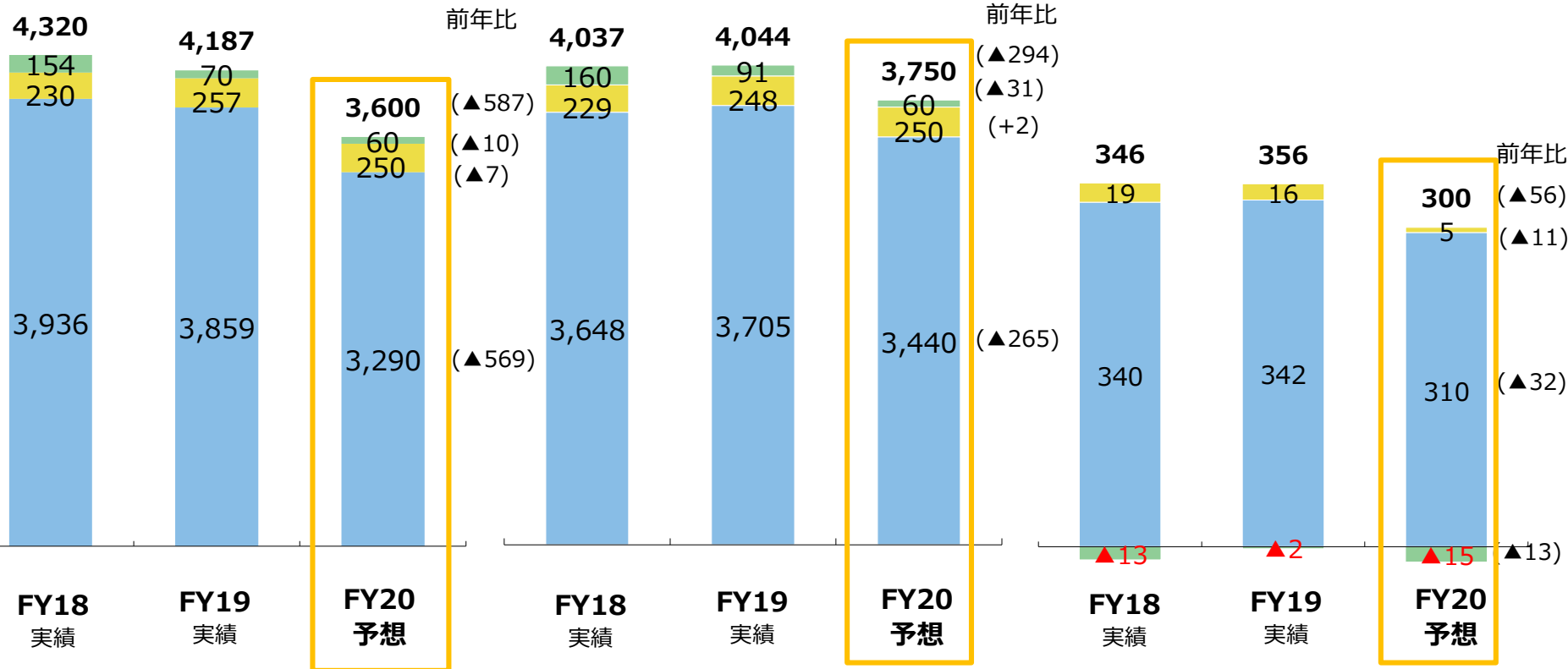
航機その他

(億円)

受注高

売上高

営業利益



制御地域別 受注・売上高 予想（修正あり）

(億円)

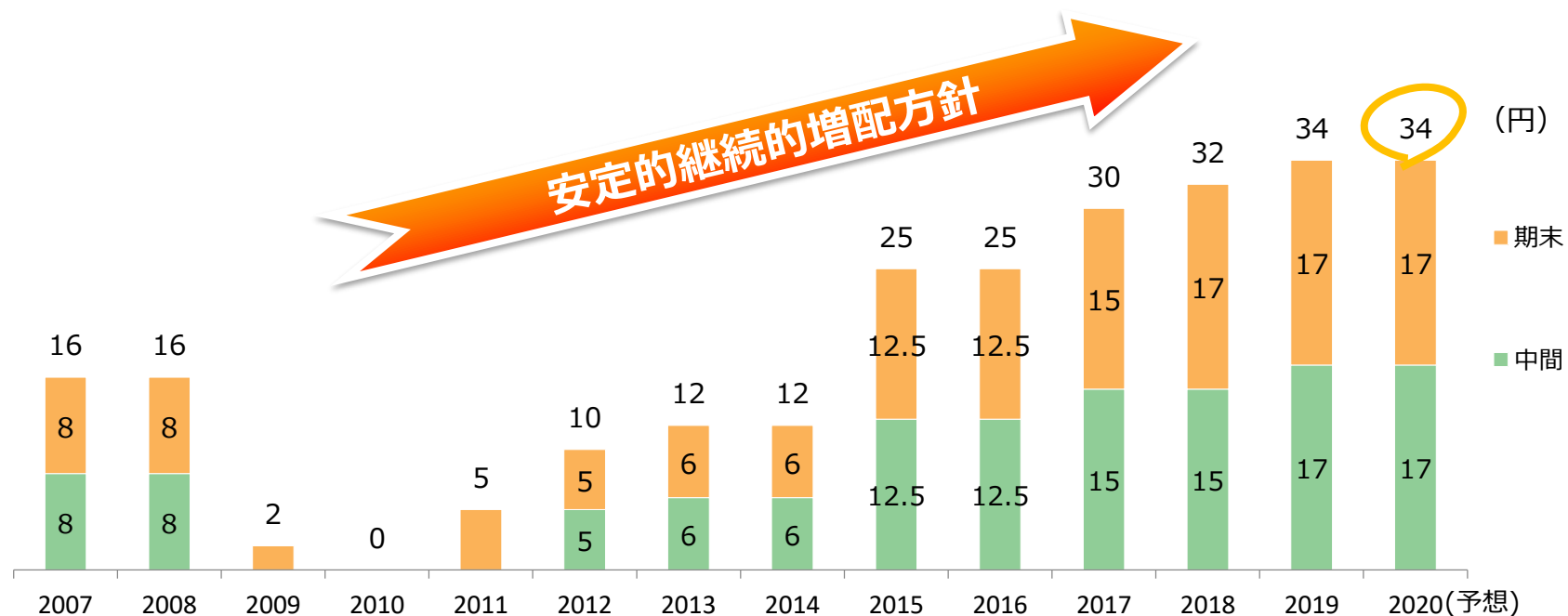
受注高	FY19 実績 (A)	FY20 予想 (B)	前年同期比 (B-A)
日本	1,154	1,095	▲59
アジア	1,227	1,095	▲132
(東南アジア・ 極東)	(628)	(560)	(▲68)
(中国)	(423)	(425)	(+2)
(インド)	(176)	(110)	(▲66)
欧州・CIS	497	390	▲107
中東アフリカ	568	400	▲168
北米	322	210	▲112
中南米	91	100	+9
海外小計	2,705	2,195	▲510
合計	3,859	3,290	▲569
為替レート 1米ドル=	108.96円	105円	▲3.96円

売上高	FY19 実績 (A)	FY20 予想 (B)	前年同期比 (B-A)
日本	1,098	1,085	▲13
アジア	1,184	1,095	▲89
(東南アジア・ 極東)	(619)	(540)	(▲79)
(中国)	(425)	(455)	+30
(インド)	(140)	(100)	(▲40)
欧州・CIS	500	410	▲90
中東アフリカ	541	460	▲81
北米	294	300	+6
中南米	88	90	+2
海外小計	2,607	2,355	▲252
合計	3,705	3,440	▲265
為替レート 1米ドル=	108.96円	105円	▲3.96円

<変更なし> 中間配当金17円を決議 年間配当金は過去最高配当額を継続

FY19 : 34円 (配当性向61.8%)

FY20 : 34円 (配当性向47.8%)



決算補足資料

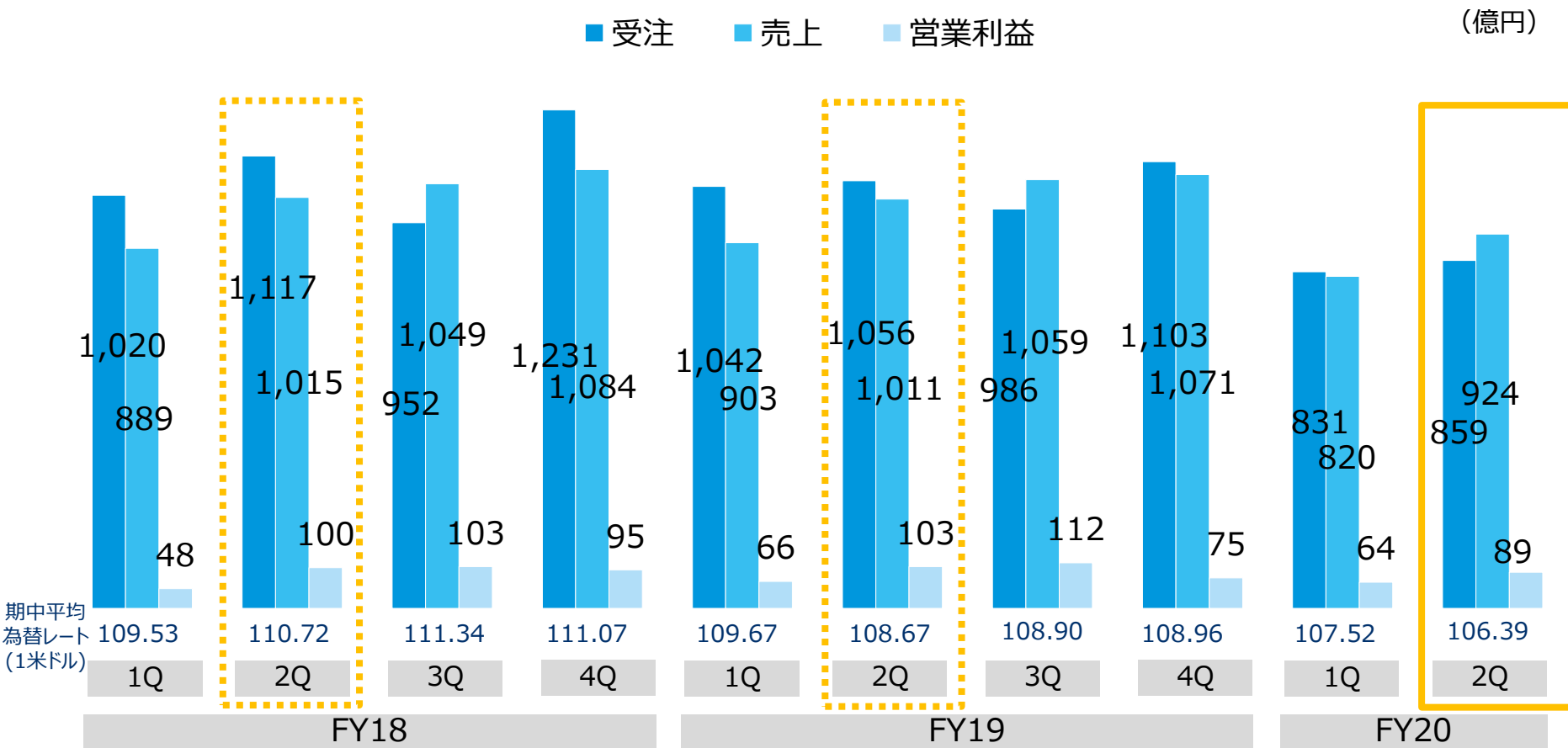
- ・四半期別実績
- ・営業外・特別損益
- ・受注残推移
- ・研究開発費・減価償却費・設備投資
- ・貸借対照表
- ・株価の状況

補足：四半期別実績

◆売上高・営業利益は、日本の制御事業を中心に2Qおよび4Qに集中傾向

子会社譲渡の影響額

FY19 年間 受注：▲28億円 売上：▲20億円 営業利益：▲2億円

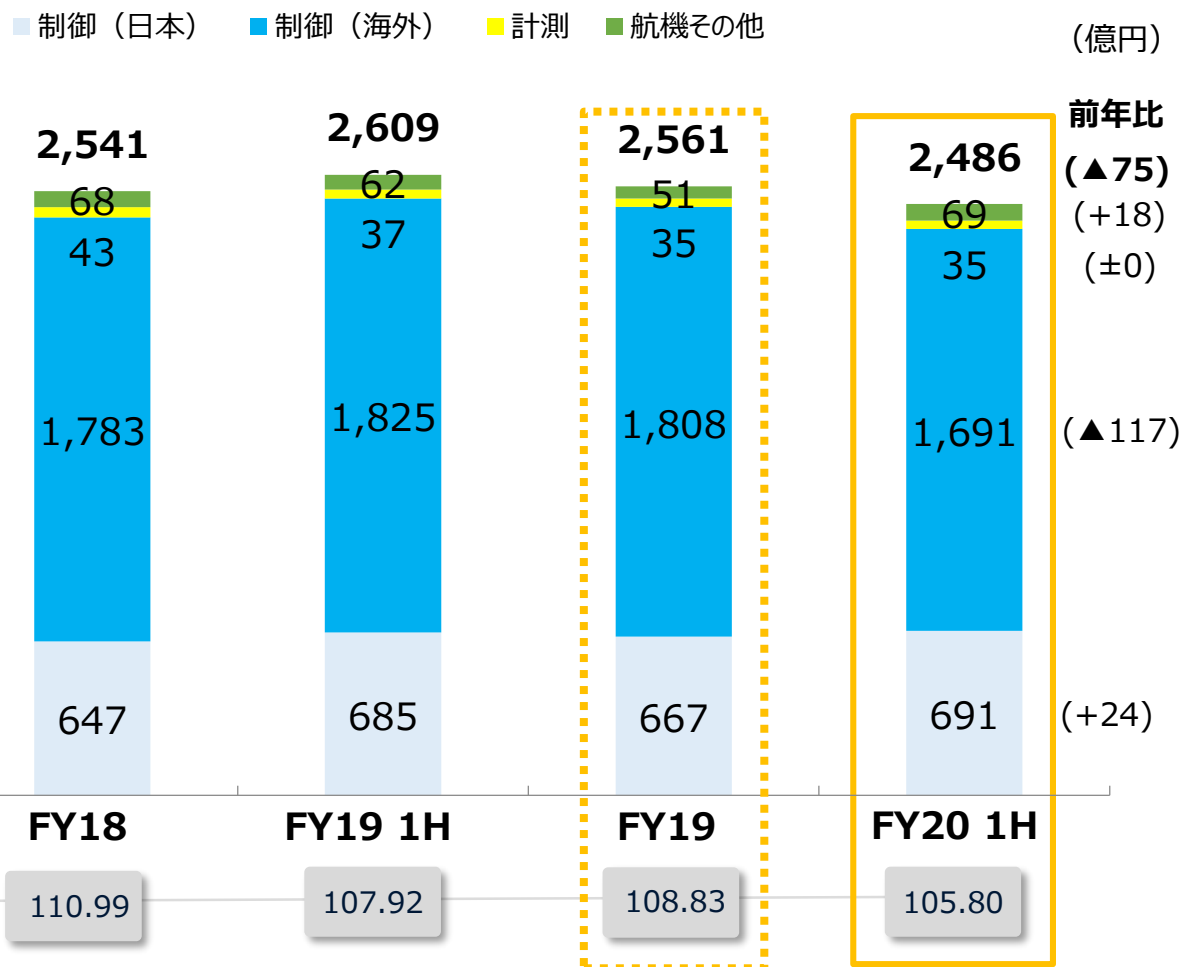


補足：営業外・特別損益

(億円)

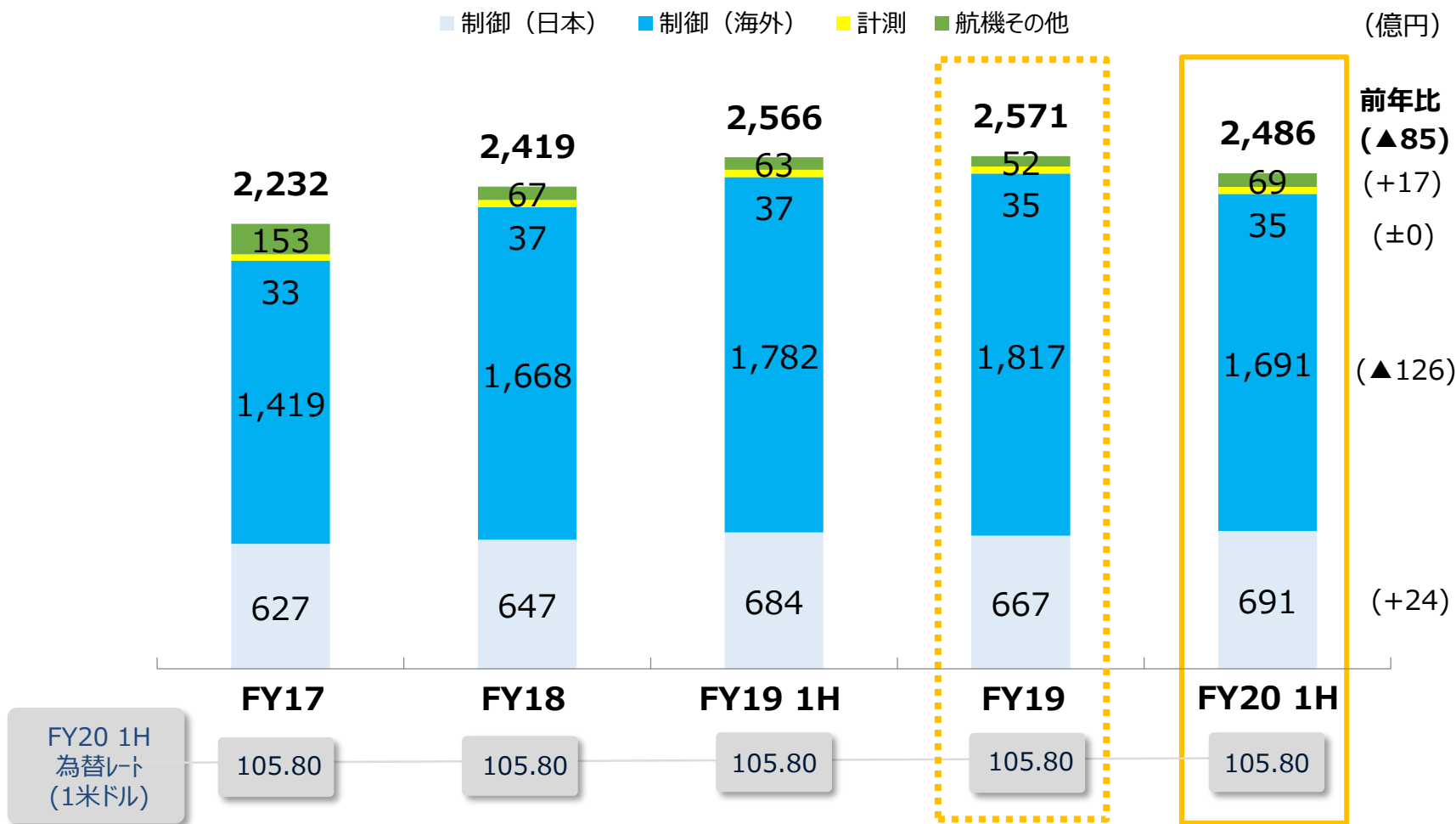
	FY19_1H	FY20_1H
営業利益	169	153
営業外収益	19	19
営業外費用	18	10
経常利益	170	163
特別利益	24	0
特別損失	32	14
税引前利益	162	149
法人税等	63	51
親会社株主に帰属する 四半期純利益	99	98
(税負担率)	33.5%	28.3%

補足：セグメント別 受注残推移



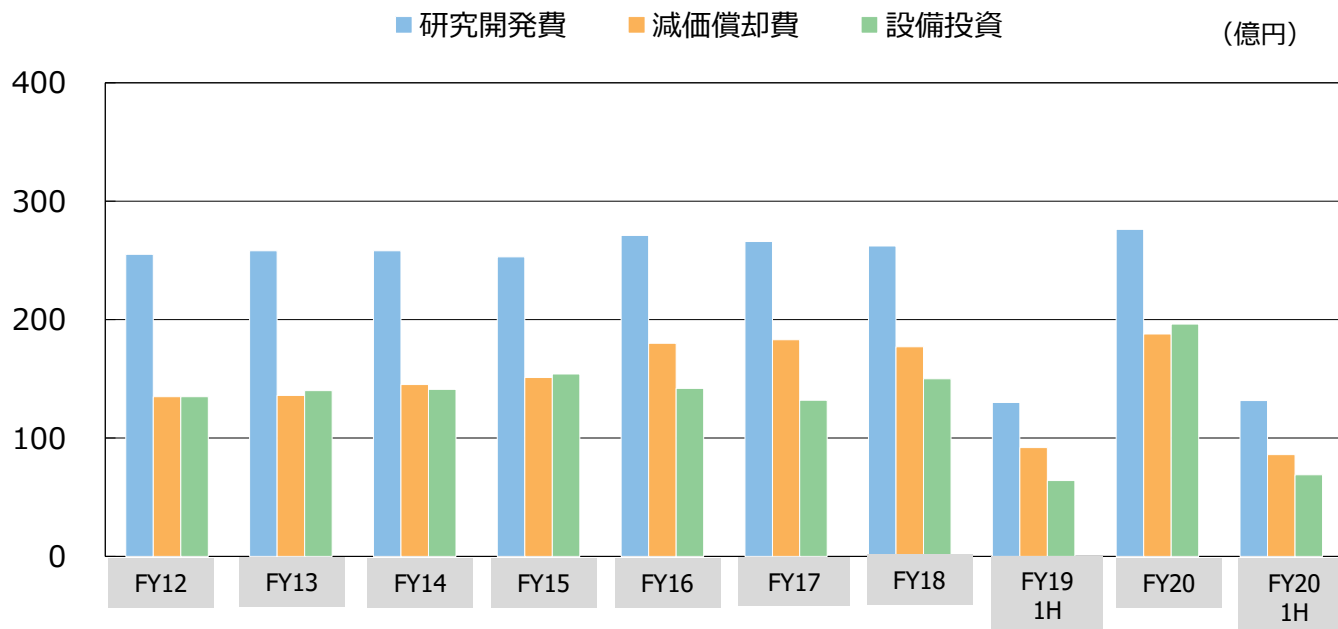
*セグメント区分を精緻化し、FY19の数字を見直しました

補足：セグメント別 受注残推移 * FY20 1H期末為替レート換算



*セグメント区分を精緻化し、FY19の数字を見直しました

補足：研究開発費・減価償却費・設備投資

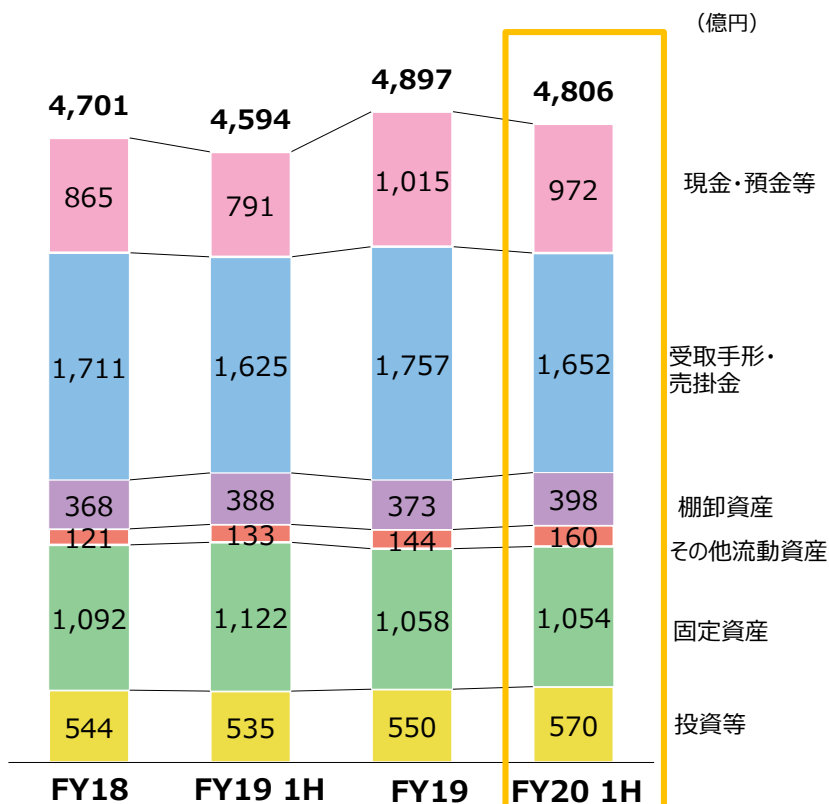


	FY12	FY13	FY14	FY15	FY16	FY17	FY18	FY19 1H	FY19	FY20_1H
研究開発費 (対売上高比率)	255 7.3%	258 6.6%	258 6.4%	253 6.1%	271 6.9%	266 6.5%	262 6.5%	130 6.8%	276 6.8%	132 7.6%
減価償却費 (対売上高比率)	135 3.9%	136 3.5%	145 3.6%	151 3.6%	180 4.6%	183 4.5%	177 4.4%	92 4.8%	188 4.6%	86 4.9%
設備投資 (対売上高比率)	135 3.9%	140 3.6%	141 3.5%	154 3.7%	142 3.6%	132 3.2%	150 3.7%	*64 3.4%	196 4.9%	69 4.0%

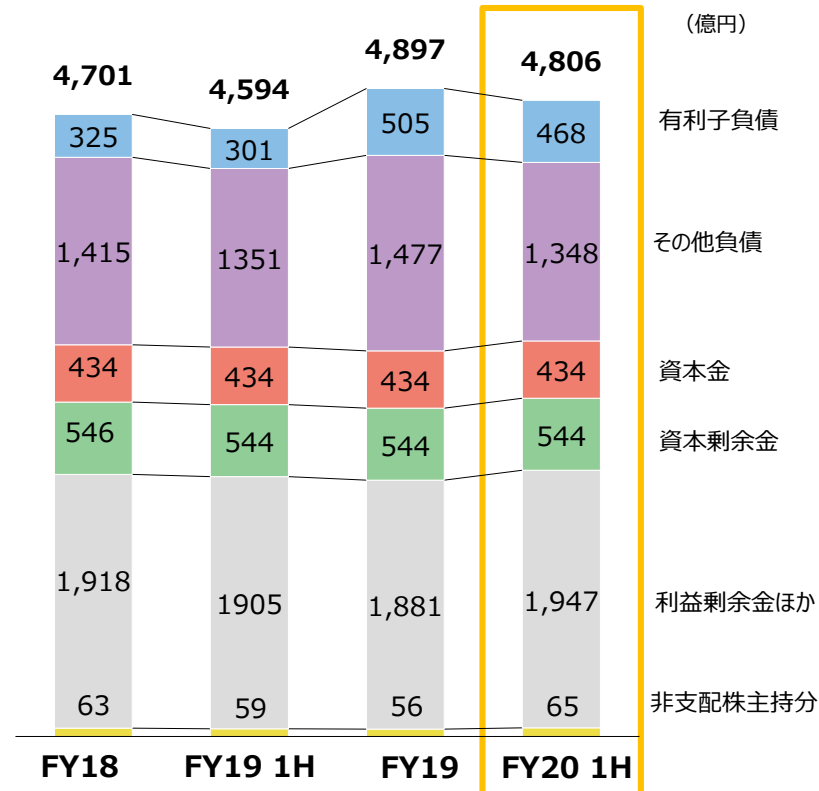
*FY19よりIFRS第16号（リース）を適用

補足：貸借対照表

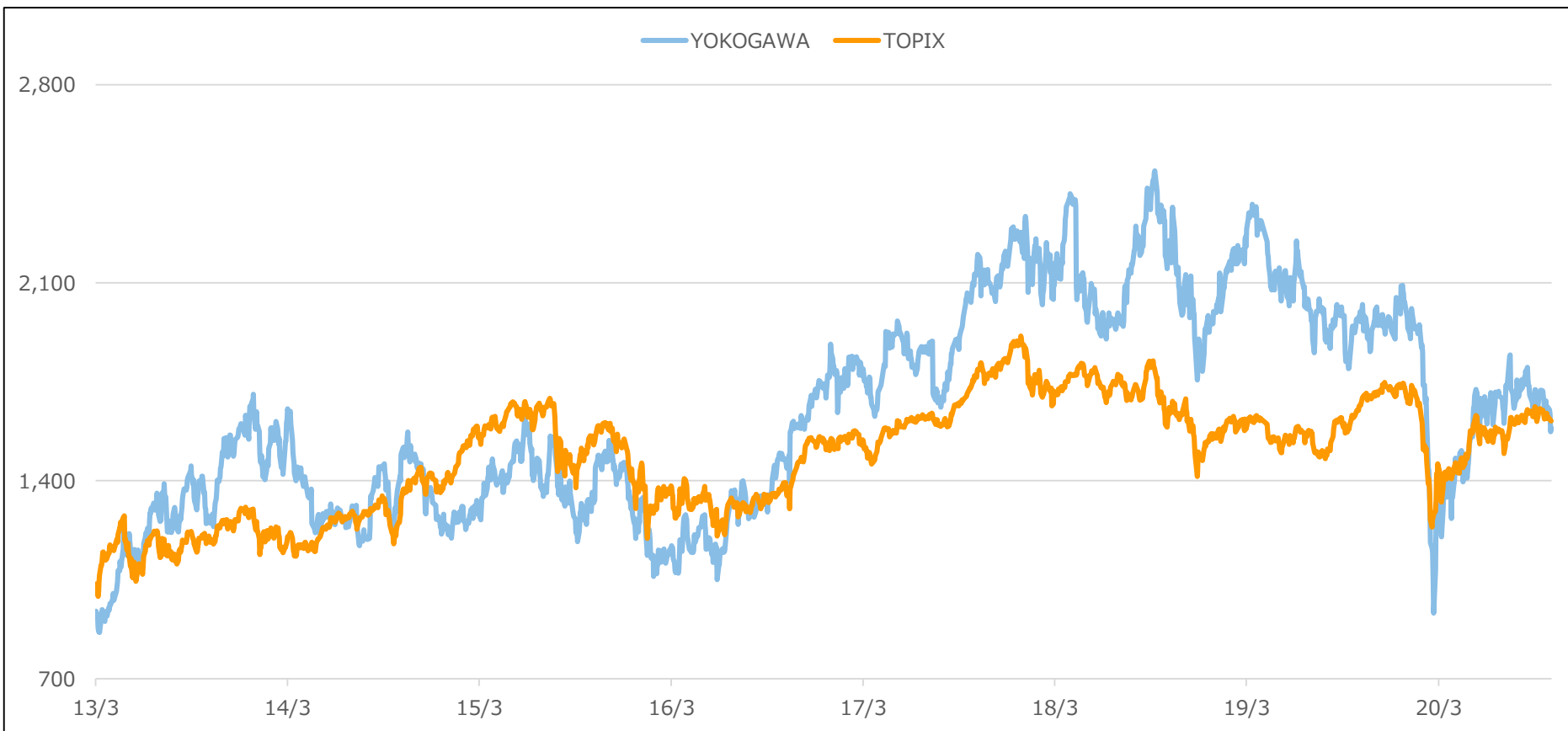
資産



負債・資本



補足：株価の状況



(円)

	13/3	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	19/6	19/9	19/12	20/3	20/6	20/9	20/10/29
Yokogawa	946	1,667	1,295	1,163	1,752	2,198	2,291	2,112	1,977	1,929	1,303	1,680	1,665	1,588
TOPIX	1,035	1,203	1,543	1,347	1,512	1,716	1,592	1,551	1,588	1,721	1,403	1,559	1,625	1,611

横河電機株式会社

2021年3月期 第2四半期 決算説明会

現状認識と今後の見通し

Transformation 2020

～変革を実現し、さらなる成長発展へ～
(特集：YOKOGAWAのDX)

代表取締役社長

奈良 寿

2020年11月4日

1. 現状認識
(外部環境、リスクと機会)
2. 中期経営計画 Transformation 2020
(略称：TF2020) ～YOKOGAWAのDX～
3. 今後の見通し
4. 参考資料

外部環境変化とYOKOGAWAの強み

危機感を持って「エネルギー依存の従来型成長モデルの転換」をさらに加速、当社の強みを発揮し、IA2IAの世界を見据えた成長機会などに注力

〈外部環境の変化〉

エネルギー資源の位置付け変化

新興国
経済鈍化

脱炭素

シェール
革命

石油の役割

社会課題解決に向けた ニーズの高まり

SDGs

パリ協定
COP21

TCFD

現地化
ニーズ

COVID
19

デジタル技術革新

IIoT

ブロック
チェーン

AI

ビッグデータ



〈YOKOGAWAの強み〉

Pharma

多様な業種ノウハウ

Chemical

LNG

Power

Down
Stream

Water

Food&
Beverage

アジア・中東を中心とした豊富な インストールベース

日本

中東

東南アジア

中国

課題解決能力

現場力

信頼

共創



IA2IA*

*Industrial Automation to Industrial Autonomy

現状認識：地域、業種

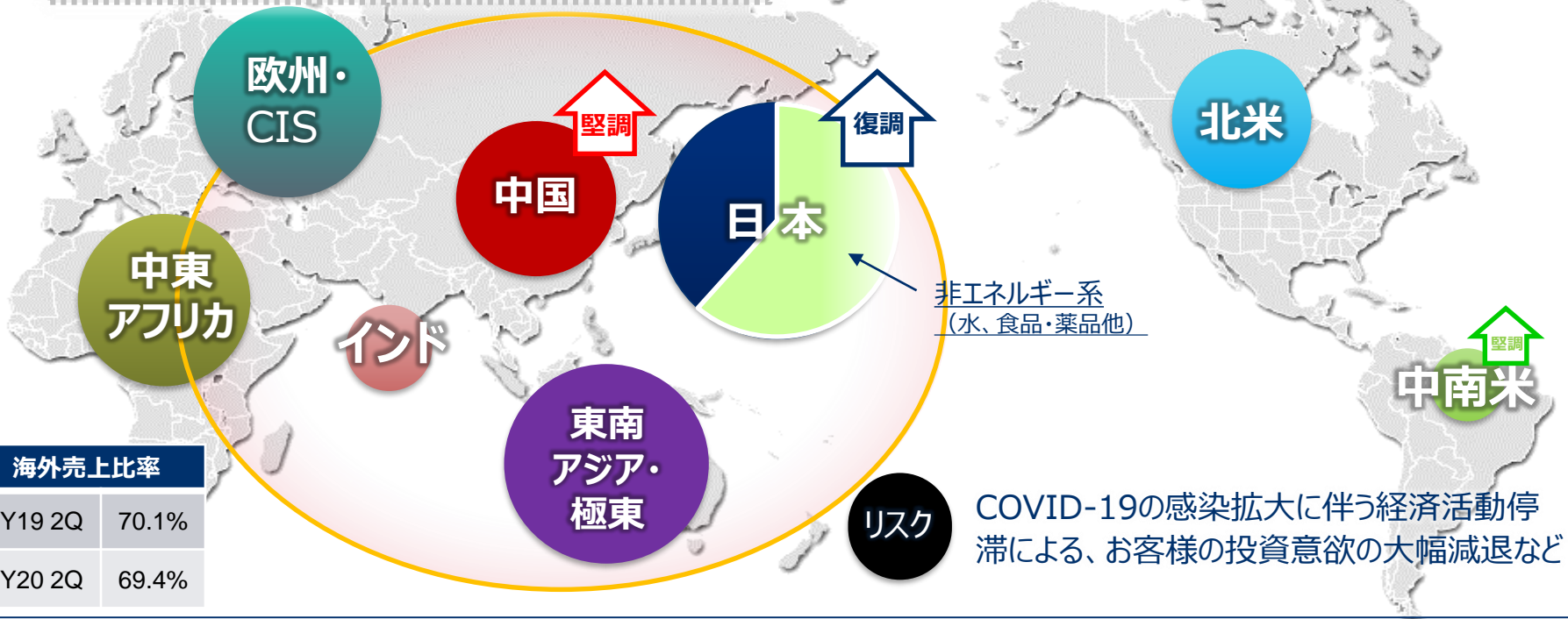
COVID-19の影響により厳しい状況が続くが、**地域・業種ではまだら模様**

地域

日本：OPEX中心に復調の傾向
 中国：競争激しいが相対的に堅調
 東南アジア・極東・インド：厳しいが案件はある
 欧州・CIS：引き続き厳しい
 中東・アフリカ：投資判断が遅れ気味だが案件期待
 北米：特に大型投資は様子見（大統領選挙）
 中南米：昨年に引き続き堅調

業種

・エネルギー需要の減退などにより、Upstream, Downstreamは厳しい
 ・化学：機能性化学分野で復調の兆しあり
 ・食品、医薬品：需要増等を背景に堅調継続
 ・電力：火力発電は厳しい傾向だが、再生可能エネルギーへの需要は増加



海外売上比率	
FY19 2Q	70.1%
FY20 2Q	69.4%

リスク

COVID-19の感染拡大に伴う経済活動停滞による、お客様の投資意欲の大幅減退など

Transformation 2020 の取り組み

- ・ 3つの基本戦略

- ① 既存事業の変革

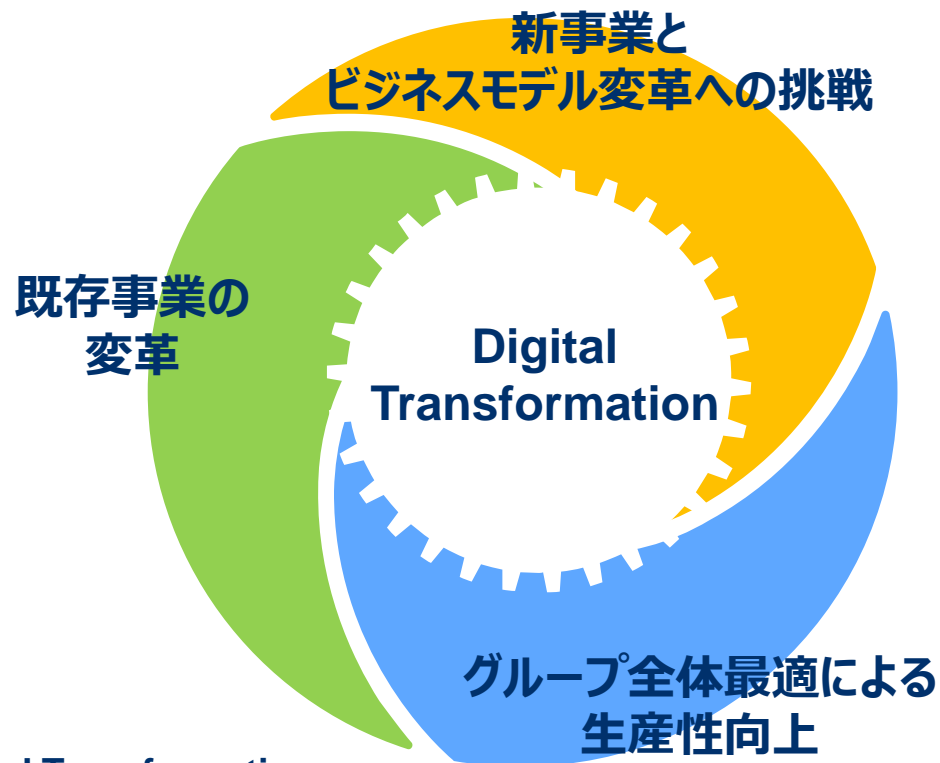
- ② 新事業とビジネスモデル変革への挑戦

- ③ グループ全体最適による生産性向上

- ・ デジタルトランスフォーメーション（YOKOGAWAのDX）

「成長機会の創出」と「成長基盤の確立」

持続可能社会を実現する事業を目指して変革






- お客様と共に生産性革命を実現
 - OPEXビジネスの拡大
 - 注力業種のさらなる強化
- イノベーションを通じ、サステナブルな価値を創造
 - ライフイノベーション事業確立
 - リカーリングビジネス確立
- 経営効率の飛躍的な向上
 - コスト競争力強化
 - リソース最適化

Digital Transformation

- デジタルビジネスの実現
- 業務プロセス変革
- ITインフラの強化

戦略への取り組み：3つの基本戦略

戦略	目標	主な活動状況
 <p>既存事業の 変革</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インストールベースを中心としたOPEXビジネスの拡大 海外OPEX成長率：7～10%/年 ・注力業種（化学、再生可能エネルギー）のさらなる強化 注力業種成長率：3～5%/年 	<ul style="list-style-type: none"> ・中東でDX統合JOBをKBCとともに受注 ・リモートビジネスの拡大（SensPlus Note等） ・エクスターナルDXの強化（→37ページ以降） ・SABIC社と戦略的提携 ・ケミカルリサイクル企業へ出資 ・当社の制御システムを採用した、国内最大の風力発電設備が稼働（→31ページ）
 <p>新事業と ビジネスモデル変革 への挑戦</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフイノベーション事業の確立 新事業FY20受注：2～3倍(FY17比) *医薬品・食品産業向け受注 *FY17実績：120億円程度 ・リカーリング型ビジネスモデル確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・買収したナノペット技術を製品化し、販売 ・液体中の粒子観察ソリューションの技術を持つFluid Imaging Technologiesを買収 ・バイオ関連のスタートアップ企業 Bloom Biorenewables（スイス）に出資 ・画像解析AIの最先端技術を持つGrazper Technologiesを買収、提案力強化
 <p>グループ 全体最適による 生産性向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的コストダウン（生産、調達、エンジ） ・グループ構造最適化 ・人財力強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・調達、物流コスト最適化 ・グローバルデリバリーセンター*の活用拡大 ・RPA導入による業務効率化（約4万時間） ・BPO（Business Process Outsourcing）加速 ・YOKOGAWA University活用 *旧セントラル・エンジニアリングセンター

Net-zero Emissions

風力・太陽光・バイオマス・地熱発電分野でのコラボレーション

Points on business

- 監視・制御、データ計測、設備保全などのソリューションを提供
- ノウハウを持つ他社とのコラボレーションなどにより、事業のポートフォリオを拡大

関連するSDGs



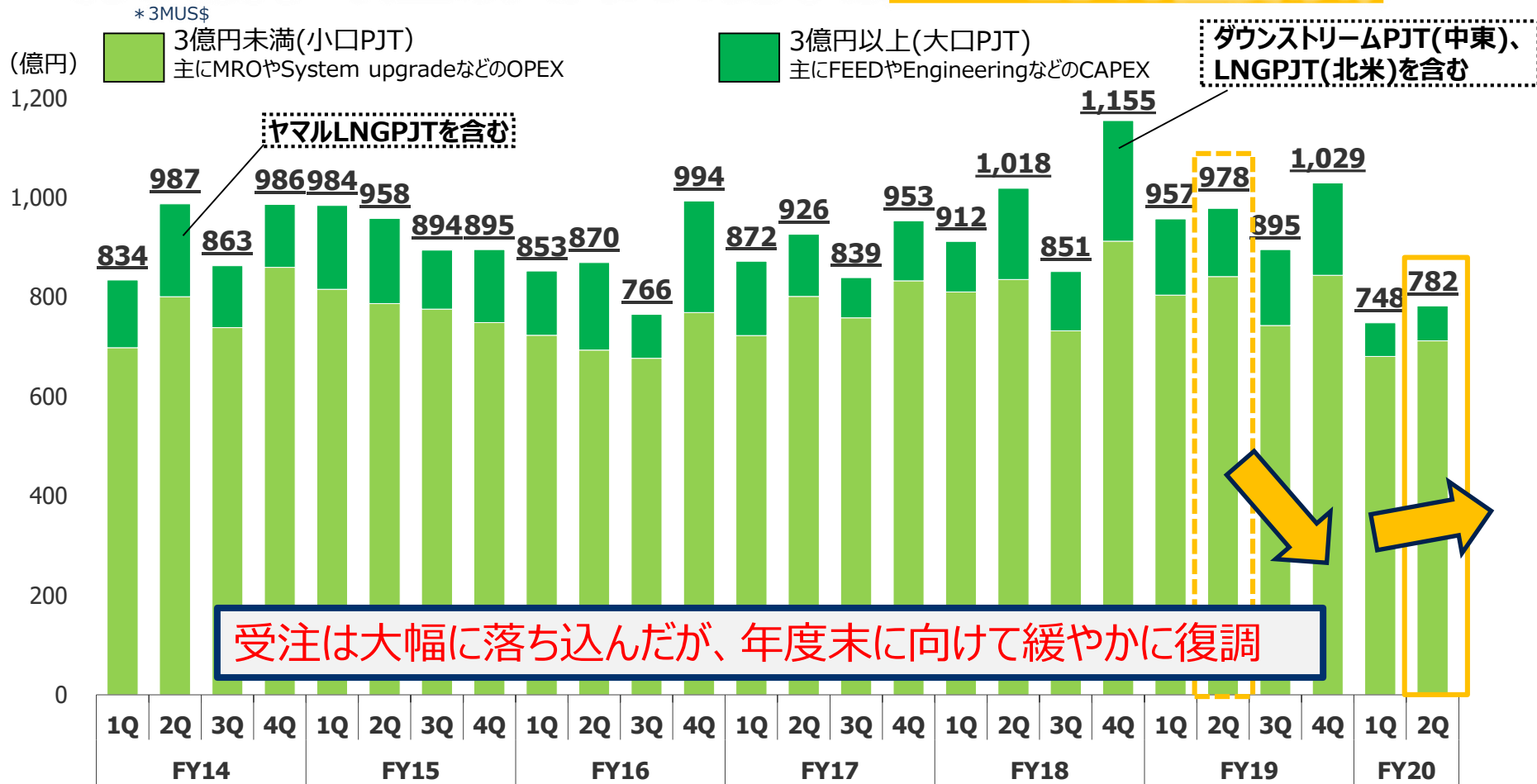
<低炭素社会実現に向けた取り組み事例>

- 風力発電事業で20年にわたって経験を持つ、Goldwindグループ（中国）とお互いの技術を融合させることで、低炭素社会実現に向けて取り組むことを合意
- 当社制御システムが採用された、日本最大の風力発電設備（ウインドファームつがる）が稼働
 - ➡風車38基、総発電容量12万1,600キロワットの統合監視、制御
 - ➡最新の技術があらゆる面で応用され、将来の風力発電業界に大きく寄与し、地域産業の活性化への貢献も期待



ご参考：制御ビジネス金額別受注推移

約3億円*以上の大口PJ T比率は10~15%程度のみ



	FY14				FY15				FY16				FY17				FY18				FY19				FY20	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
USD	101.71	103.53	107.7	110.58	121.78	121.75	121.63	119.99	108.53	102.91	107.64	108.95	111.42	111.29	111.77	110.7	109.53	110.72	111.34	111.07	109.67	108.67	108.9	108.96	107.52	106.39

デジタルトランスフォーメーション（DX）



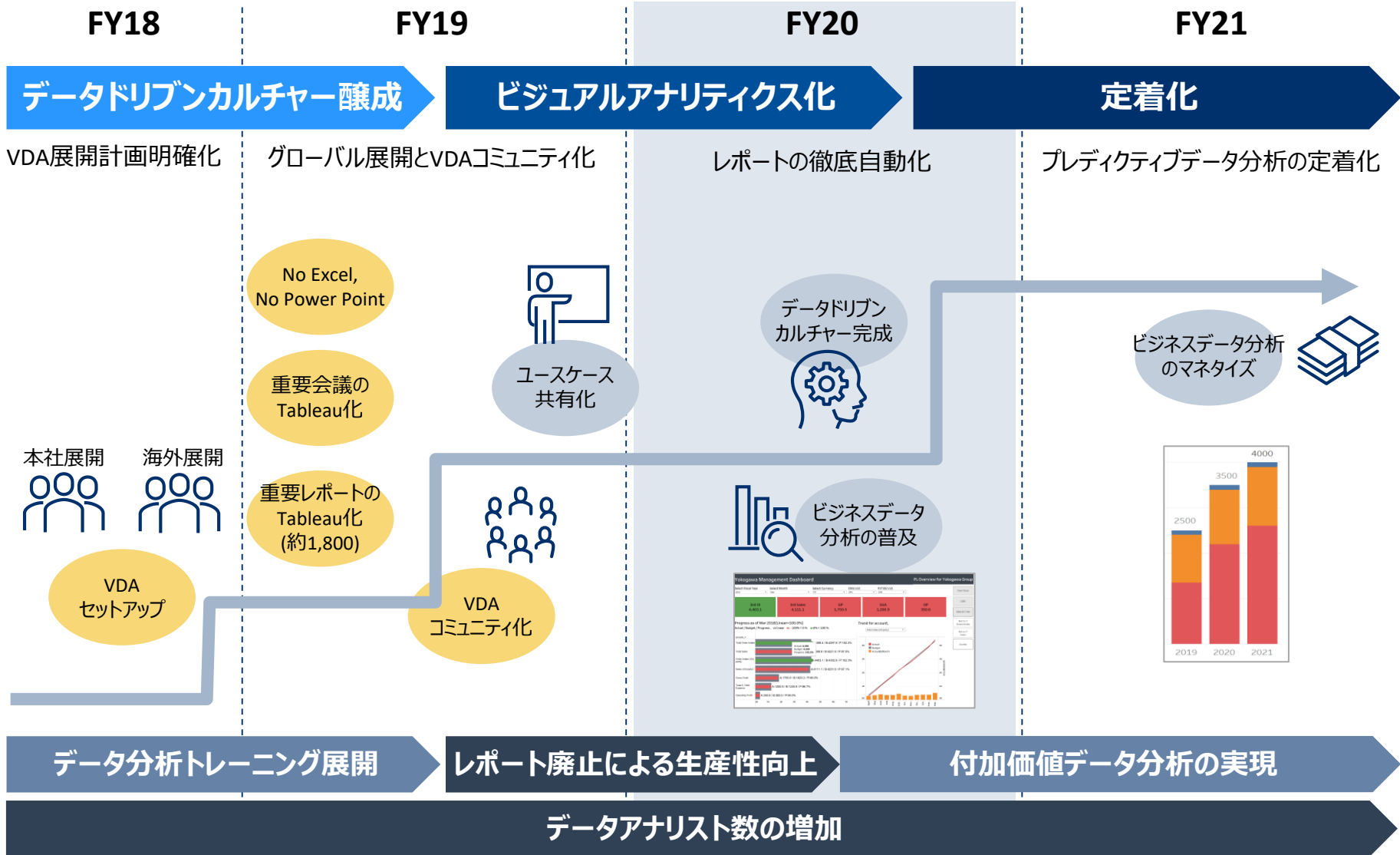
社内への価値創出（Internal DX） をベースに、 お客様への価値提供（External DX） に注力

戦略	目標	活動レビュー
	<p style="text-align: center;">社内への価値</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">お客様への価値</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ITアプリケーションのグローバル最適化プロジェクト推進 →FY18比で12%削減。FY20中にFY18比で20%削減予定 ・ITインフラのハイブリッドクラウド化推進 →FY20上期でクラウド化率57%を達成。FY20中に60%以上をターゲット ・データレイクとBIツールによるデータドリブン経営の加速 →エンタープライズデータレイクを導入し、BIツールをグローバルに展開中 ・工場内デジタル化の加速 →工場内データを統合するOT (Operation Technology)データレイク整備もスタート ・RPAによる社内オペレーションの自動化推進 →FY20上期で約4万時間の業務工数を削減。RPAをグローバル展開中 ・CX(Customer Experience)のデジタル化に着手 →販売・マーケティング・サービスプロセスをグローバルに統合する施策をスタート ・Digital Enterprise Business HQ内に各事業本部のDXビジネス化を担うDXプラットフォームセンター設置 →クラウドベースのエンタープライズ向けエネルギー管理ソリューションをリリースなど ・プラントデータ活用型DXサービス製品のラインアップ拡充 →統合情報サーバ (Collaborative Information Server : CI Server) をリリース ・セキュリティサービスビジネスの強化 →セキュリティを含めたOTシステムの運用を強化



Internal DX (1/3)

データドリブン経営実現に向けたSelf-BIグローバル導入

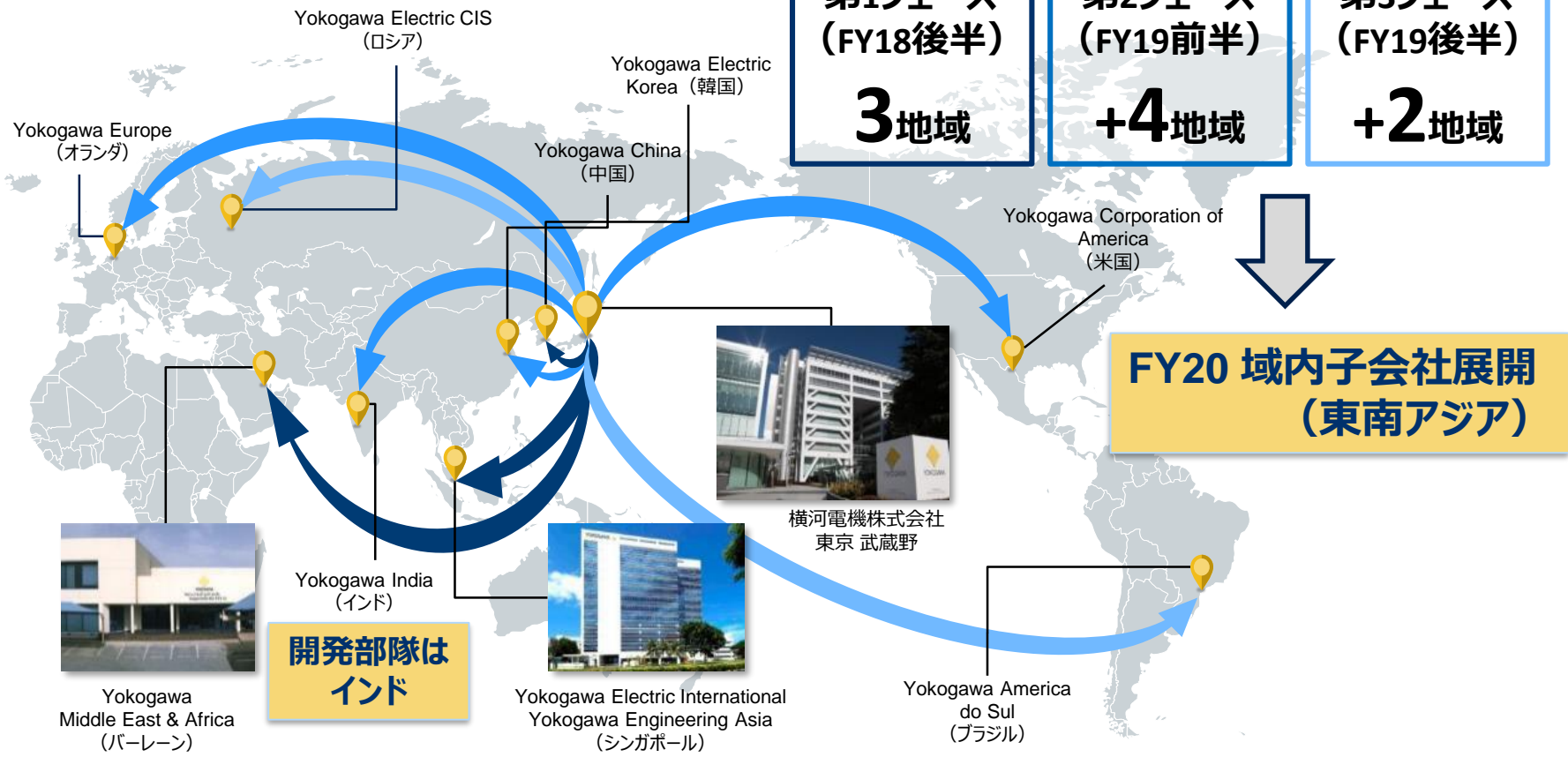




Internal DX (2/3) RPAのグローバル導入

フェーズごとに対象地域を拡大、販管費の最適化に貢献
 →FY20上期で約4万時間の業務工数を削減

第1フェーズ (FY18後半) 3地域	第2フェーズ (FY19前半) +4地域	第3フェーズ (FY19後半) +2地域
----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------

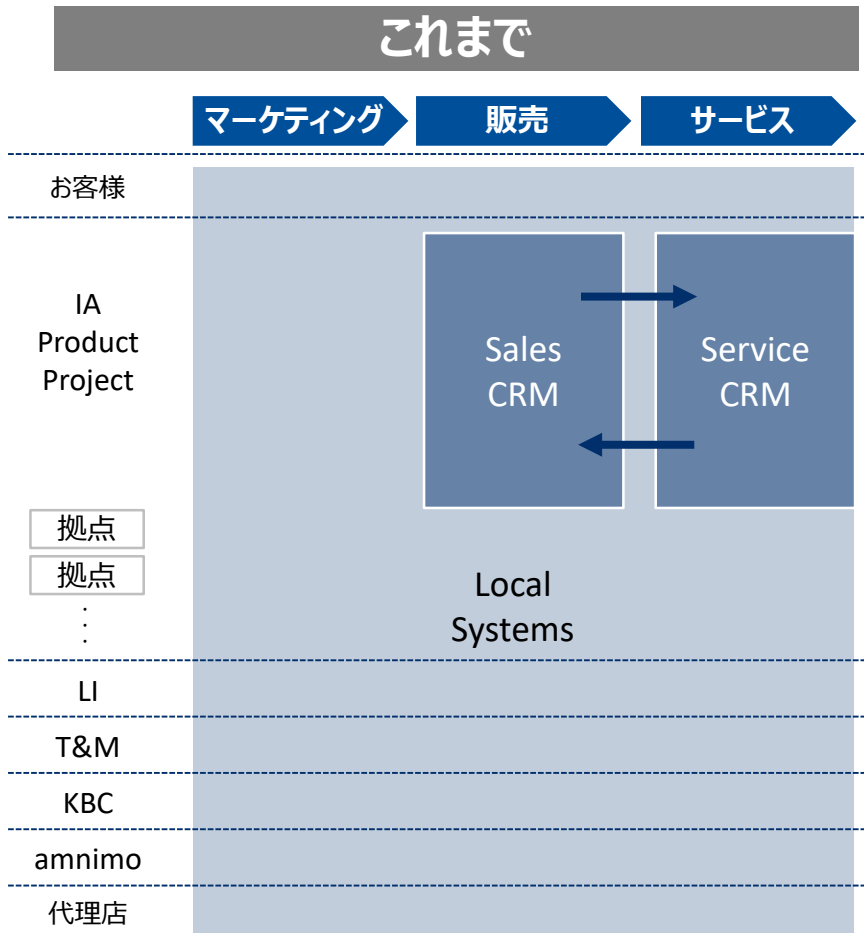


RPA = Robotics Process Automation

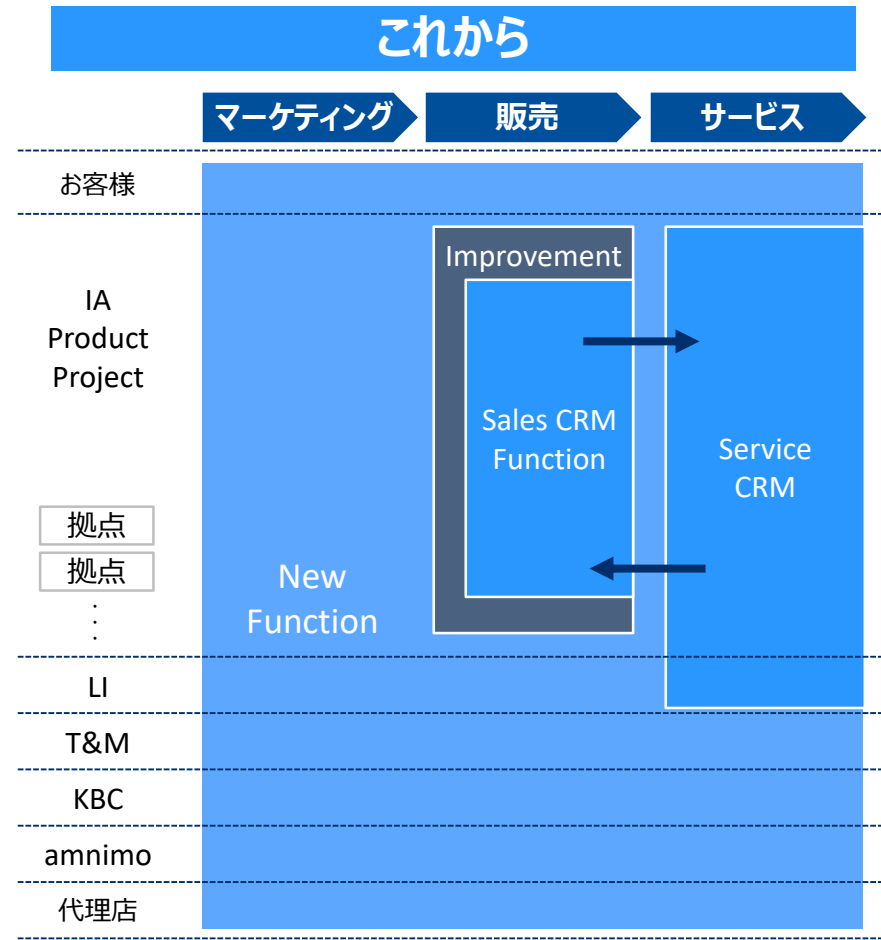


マーケティング・販売・サービスを有機的にプロセス統合し、インバウンドマーケティングを強化する

これまで



これから



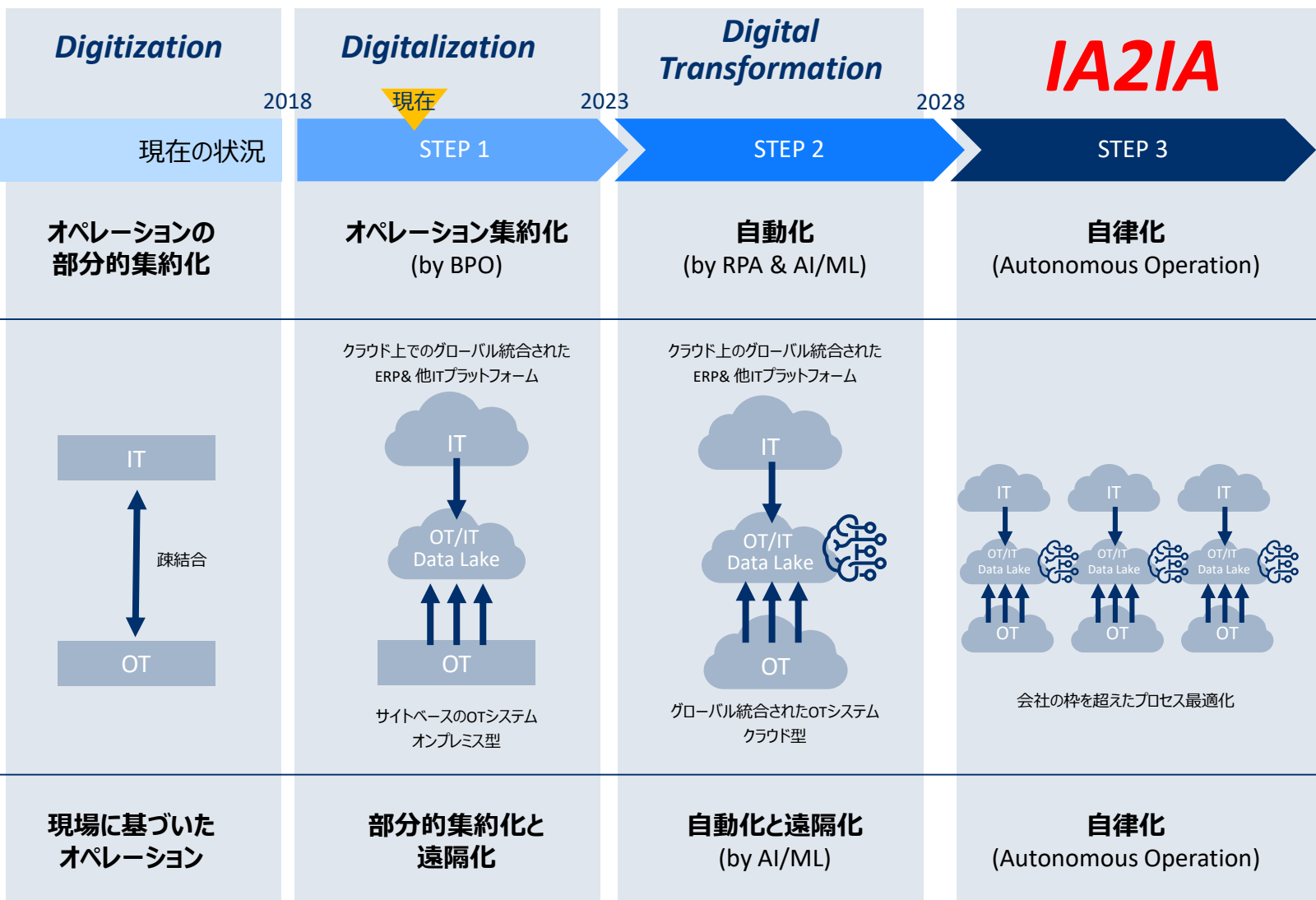


External DX (1/4)

DXの成熟度 (イメージ)

DXのキードライバー

- ・システム統廃合によるデータ統合
- ・データアナリスト数
- ・AIエンジニア数





External DX (2/4)

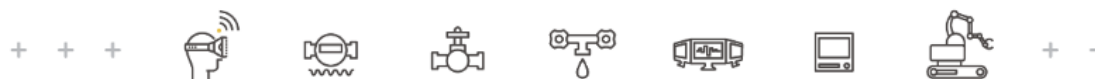
事例1：統合情報サーバ (Collaborative Information Server)

<NEW> 10/19リリース

- ・各サイト・プラント全体の統合オペレーション（全体最適）により、お客様のDXニーズを含めて取り込む
- ・既に複数のお客様から引き合い



プラントを構成する様々なシステム・設備・機器



システム・設備例：

生産制御システム (DCS)、安全計装システム、設備管理システム、品質管理システム、タービンコントロールシステム など

機器例：

PLC、各種計測器、伝送器、IIoT機器、ロボティクス など

CIサーバの詳細はこちらから ➡ <https://www.yokogawa.co.jp/solutions/products-platforms/control-system/ciserver/>

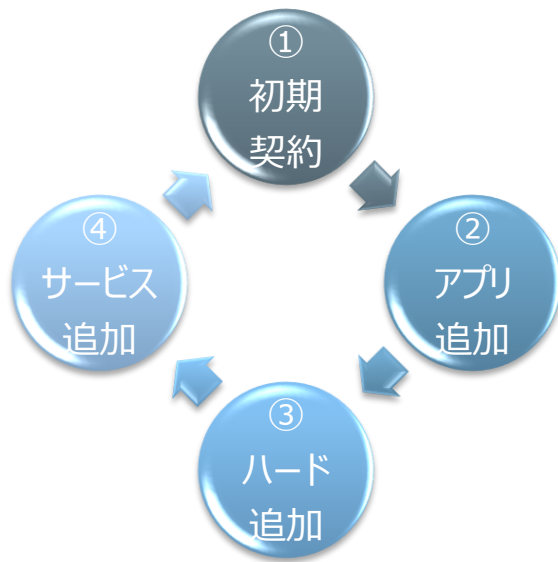


■ 排ガス連続監視(CEMS)[※] レポートサービス

- 月々定額課金により、お客様の初期投資を低減
- 当社が、排ガス規制データ測定と、レポートを作成
- 将来の技術進歩や規制強化による機能追加にも対応(追加契約)
- サービスメンテナンス費用込み

売り切り型の課題
・技術進歩対応
・規制強化対応

リカーリング型で解決
・アプリ追加で機能を強化
・新規制対応のハード追加
・新サービスの追加



環境規制



CEMS

※ Continuous Emission Monitoring System

◆ YOKOGAWAのAI 「今を知り、将来を予測し、最適化する」

- ・自社開発した人工知能(AI)によるAIコンサルテーションは、既に約50件の実績
- ・プラントの自動最適化運転では、奈良先端科学技術大学院大学と共同開発
- ・今後は、クラウド上での「プラント制御の自動最適化」の実現、「半導体製造などの瞬間的に精密な制御」が求められる巨大市場をターゲットとして、製品の実用化に取り組む

<主なAI関連製品>

Type	Name		Overview
Products	DUCSOnEX		Predictive maintenance for equipment 設備の「いつもとちがう」異常を検知
	Digital Plant Operation Intelligence (DPI)		Quality stabilization for process 生産現場の変化に応じた改善活動に貢献
	Process Data Analytics (PDA)		Quality stabilization for process プロセスデータを深く解析し、品質安定化に貢献
	e-RT3 Plus (F3RP70-2L)		Industrial AI platform for Python 産業用AIプラットフォーム
	High content analysis software Cell Pathfinder		Detection of unstained cells 顕微鏡画像から細胞内現象の解析

今後の見通し

- ・FY20基本方針、業績予想
- ・YOKOGAWAが目指す方向

◆以下のアクションプランを含め、TF2020の加速(施策の完遂と効果の刈り取り)に注力する

① TF2020施策の優先順位の設定および見直し

② グループ全体最適に向けたさらなるコスト削減

- ・ 不急の費用執行禁止
- ・ リモートワークなど働き方の変化を含む費用最適化 など

③ 強靱な財務力の堅持

④ ウィズコロナ社会を見据えた構えの構築

・ 社会ニーズの変化への対応

安全安心、セキュリティ、生産性・最適化向上、遠隔化、自律化 (IA2IA) が促進される社会や産業への要求は大きな機会

受注事例：AR（拡張現実）技術によるリモートサービス

◆ポイント：信頼性（ハード、ソフト、インテグレーション）が強み、
エキスパートノウハウの効率活用として大きな成長を期待

<分析計の事例>

■ COVID-19対応のため、
リモートFAT*/コミショニング**サービス
などの受注引き合い実績が増加

	国	内容	状況
1	カナダ	リモートFAT	完了
2	オマーン	リモートコミショニング	完了
3	オマーン	リモートFAT	実施中
4	イラク	リモートコミショニング	計画中
5	イラク	リモートコミショニング	計画中



現場作業員



当社サービス員
(エキスパート)

* FAT (工場受入検査),
** コミショニング(機器の立ち上げ試運転)

中計最終年度の目標 ～FY20業績予想～

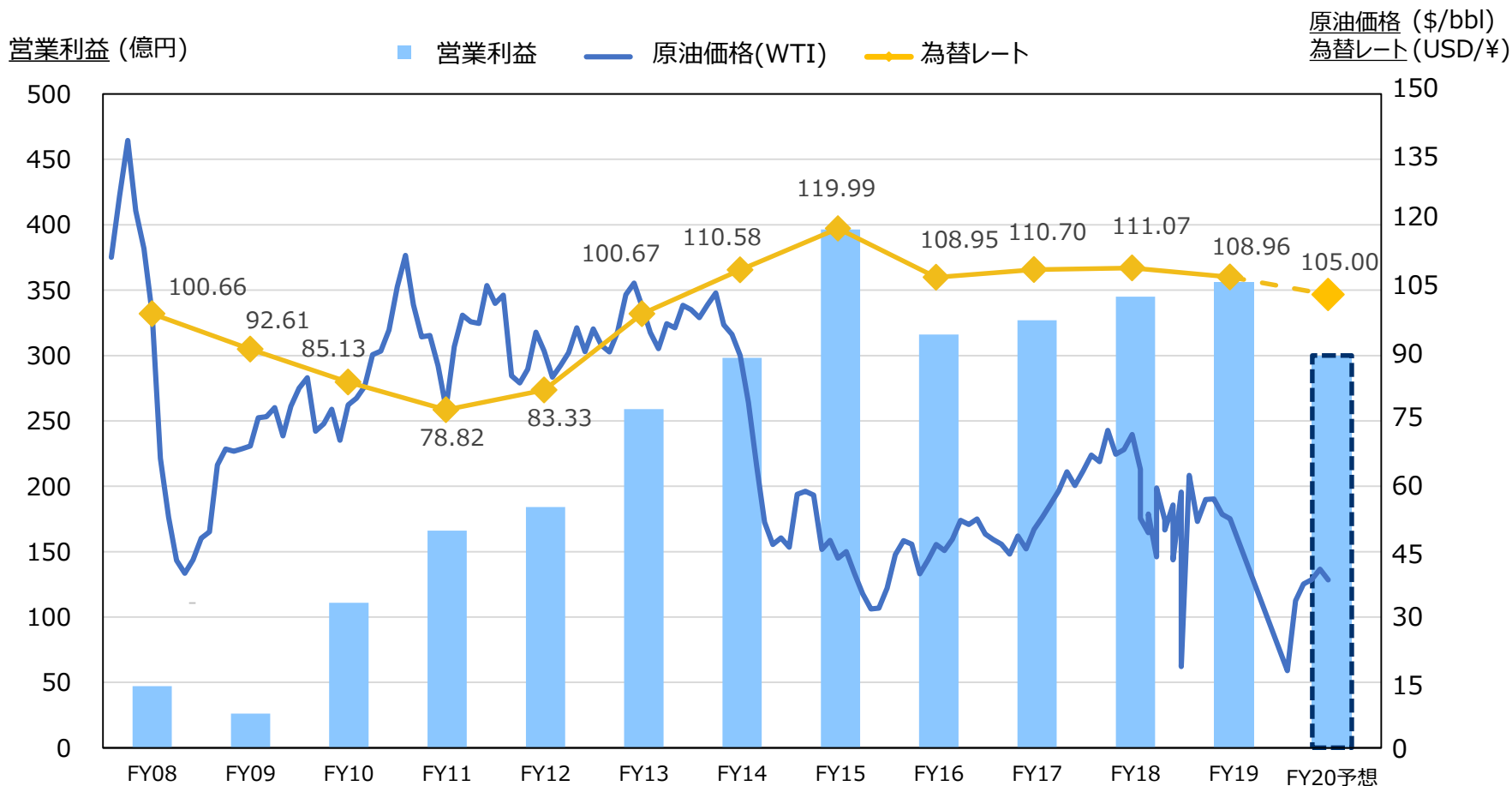
◆FY20：安定的に収益性を高めてきたが、逆境を機会と捉え、TF2020における変革の最終年度の目標を達成する

(億円)

		FY17 実績(A)	FY18 実績	FY19 実績	FY20 予想(B)
受注高		4,003	4,320	4,187	3,600
売上高		4,066	4,037	4,044	3,750
営業利益		327	346	356	300
ROS(%)		8.0	8.6	8.8	8.0
親会社株主に帰属 する当期純利益		214	284	147	190
EPS(円)		80.27	106.54	55.02	71.18
為替レート	1米ドル=	110.70円	111.07円	108.96円	105円

目指す姿：変化に耐えうる強靱な収益構造（レジリエンス）

原油価格や為替の影響などを最小化し、医薬品・食品を含めた新事業の成長と、既存事業の安定性（収益性）で、バランスをとりながら持続的成長を実現

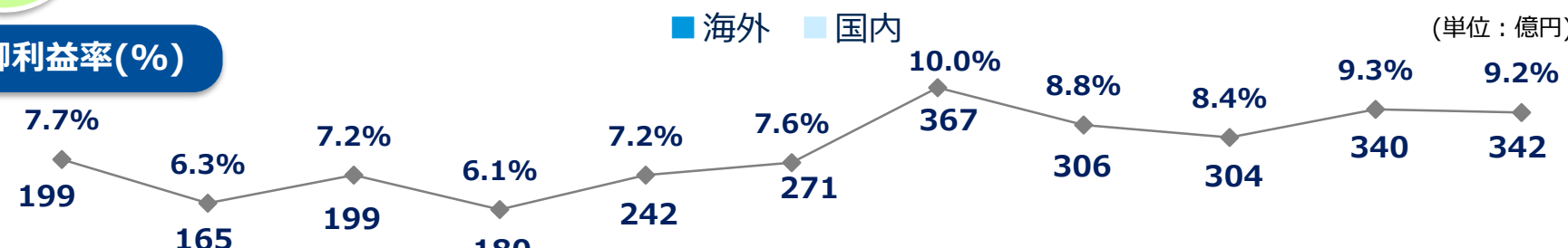


制御国内海外 売上高/営業利益/利益率推移

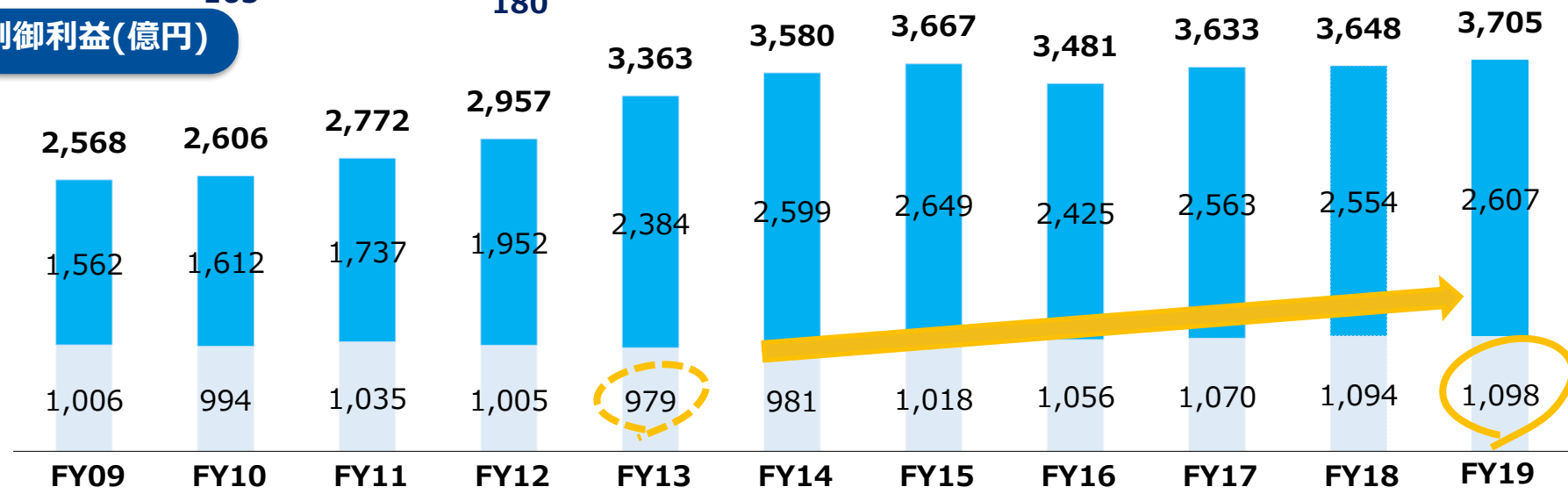


- ・OPEXを軸足に、「ソリューションビジネス拡大」と「業種の拡大(医薬品)」等で6年連続増収
- ・大型エネルギープラントの数は増えてないが、統合化・効率化・リモートなどのニーズは逆に増加

制御利益率(%)



制御利益(億円)

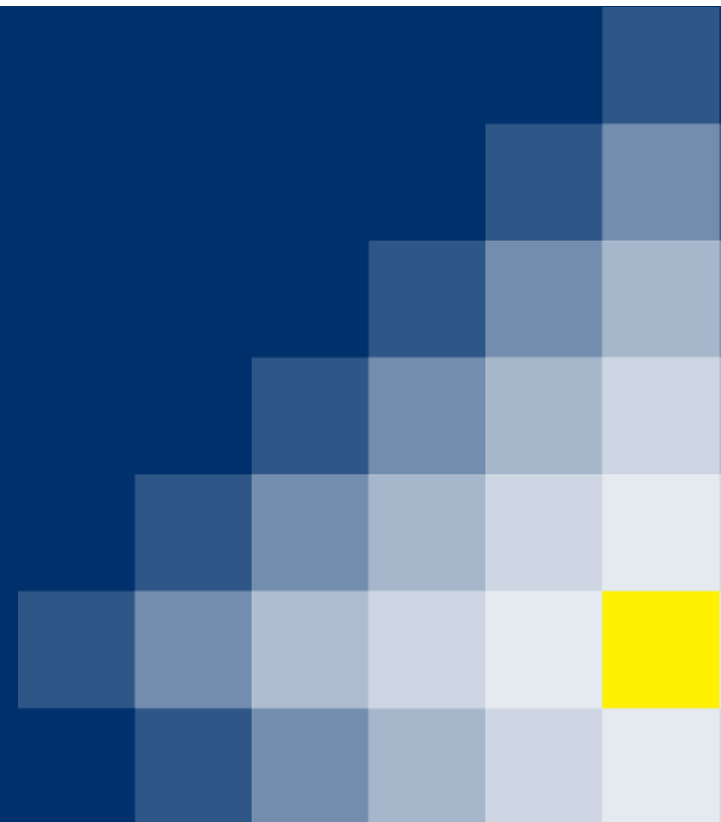


<期中平均為替レート>

USDドル(¥)	FY09	FY10	FY11	FY12	FY13	FY14	FY15	FY16	FY17	FY18	FY19
	92.61	85.13	78.82	83.33	100.67	110.58	119.99	108.95	110.70	111.07	108.96

- YOKOGAWAはCOVID-19を乗り越える
強靱な力を持つレジリエントカンパニー
- YOKOGAWAの事業は、ウィズコロナ社会で
拡大するビジネス領域の中心にいる
- YOKOGAWAの目指す方向は、
持続可能な社会の実現と
新たな成長機会の創出

Co-innovating tomorrow™



“Automation Supplier”から“Trusted Partner”へ



Operational Technology



Information Technology

ご参考：トピックス (8/13～11/4)

8月

バイオマス先端技術を持つスイスのスタートアップ企業 Bloom Biorenewablesに資本参加し、業務提携契約を締結

自動車、メカトロニクス、エレクトロニクス製品の開発効率向上を支援するミックドシグナルオシロスコープ「DLM5000」を開発・発売

インベスターズガイドを更新 [Link](#)



9月

産業における自律化の調査結果を公表
～プロセス産業の3分の2が2030年までに完全自律操業を見込む～

統合生産制御システム「CENTUM VP R6.07.10」を開発、発売
～大規模なシステム向け統合アラーム管理サーバで安全で効率的な操業に貢献～
「YOKOGAWAグループ人権方針」を策定 [Link](#)

プラント設備の保守を支援する「OpreX Managed Service」を海外で発売



10月

安全計装システム「ProSafe」シリーズに国際的な安全度水準SIL2対応の「ProSafe-RS Lite」を開発・発売
リモートオペレーションの環境を提供し、効率的なプラント操業を支援する
「統合情報サーバ (CI Server)」を開発・発売

エンタープライズ分野に、クラウドベースのエネルギー管理ソリューションを提供開始

YOKOGAWAレポート2020を発行 [Link](#)



ご参考：YOKOGAWAが採用されているESG関連インデックスなど

2020年10月現在

DJSI-Asia Pacific
 FTSE4Good Index Series
 FTSE Blossom Japan Index
 MSCI ESG Ratings AA
 MSCI ESG Leaders Indexes
 MSCIジャパンESG セレクト・リーダーズ指数
 MSCI 日本株 女性活躍指数
 CDPウォーターセキュリティAリスト
 CDPサプライヤー・エンゲージメント・リーダー・ボード
 SNAMサステナビリティ・インデックス
 S&P/JPXカーボンエフィシエント指数

MEMBER OF

**Dow Jones
Sustainability Indices**



In collaboration with a RobecoSAM brand



FTSE4Good



FTSE Blossom
Japan

**MSCI
ESG RATINGS**



CCC B BB BBB A AA AAA

2020 MSCI ESG Leaders
Indexes Constituent

2020 CONSTITUENT MSCIジャパン
ESGセレクト・リーダーズ指数

2020 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

THE INCLUSION OF YOKOGAWA ELECTRIC CORPORATION IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF YOKOGAWA ELECTRIC CORPORATION BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES.
THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.



本資料およびアナリスト説明会で提供する情報のうち業績見通し及び事業計画等に関するものは、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいています。

従って、実際の業績は、様々な要因により、これらの見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

当社がこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

本資料の著作権は当社に帰属し、当社の事前の承諾なく複製または転用すること等を禁じます。

また、本資料には企業連結に係る暫定的な会計処理の確定および税効果会計に係る会計基準の一部改正に伴う過年度遡及修正を反映しておりません。(決算短信とは軽微な相違があります)

横河電機株式会社

財務・IR部 IR課

Email : Yokogawa_Electric_IR6841@cs.jp.yokogawa.com

TEL : 0422-52-6845

URL : <https://www.yokogawa.co.jp/about/ir/>